

令和2年度 第6回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

1 日時

2021年（令和3年）2月17日（水）午後6時～午後7時27分

2 場所

ウェブ開催

3 出席者

(1) 委員 10人

山岡委員長、坂井副委員長、林委員、樋口委員、阿部委員、細沼委員、島村委員
間山委員、原田委員、鎌倉委員

(2) 市側 6人

福室参事、藤岡主幹、近藤補佐、一瀬主査、浅野主任、緒方主任

(3) 藤沢市市民活動推進センター 1人

関野センター長

(4) 傍聴者 2人

4 議題

(1) 令和3年度ミライカナエル活動サポート事業について

(2) 令和3年度に向けた取り組みについて

5 配布資料

(1) 令和3年度募集コース概要について

(2) 令和3年度募集審査の評価項目等について

(3) 令和3年度募集年間スケジュール案

(4) 藤沢市市民活動推進計画〈基本指針1〉

- (5) 藤沢市市民活動推進計画<基本指針2>
- (6) 藤沢市市民活動推進計画<基本指針3>
- (7) 藤沢市市民活動支援施設 調査・研究事業

Withコロナ社会の市民活動状況調査（2020年度実施）途中経過

6 開催概要

開会

○事務局より、委員会成立の報告、傍聴者数、資料確認、及び委員会の公開となる旨、報告が行われた。

(山岡委員長) それでは、議題に入る前に、私から1点ご提案がございます。

事務局から事前にメールでご案内がありましたけれども、前回の委員会が終了時間を大幅に超過してしまったということを受けまして、会議終了時間となっても議論が尽くせないような場合は、それをひたすら延長するというのではなく、議事が残っている場合でも、後日メールでの意見送付または書面での決裁、あるいは次の委員会に持ち越しという形で対応することとして、原則としてはあらかじめ設定された予定時間で会議は閉会することとしたいと思います。

理由としましては、皆さんそれぞれお仕事をお持ちの中で、藤沢市の市民活動のためにという思いを持って時間を割いてくださっている。前回の会議はお昼でしたので、その後ご予約のある方も当然おられたと思いますし、特に夜遅くなると、きょうもオンラインで、人によっては自宅ということもあると思います。ご家庭の事情もあるでしょうし、そういうもろもろを調整しての委員会ですので、そこはきちんとしていきたいと私としては考えております。

ただ、そうすることによって意見が活発に出なくなるということだけは避けたい。それとは全く別のことなので、今まで同様にご意見はとどめることなく、必要な意見は全て発言をいただきたいと思います。そこだけ確実にお願いしたいと思います。その上で、超過する場合は別途の方法をとるというふうに考えていただければと思います。

とはいえ、時間が来たので突然そこでパシャッと終わりということではなく、区切りのいいところまで、あるいは状況によっては委員会の中でちゃんと合意を得て15分延長するとか、必要があればそういうことも当然したいと考えています。そのうえで、ご了解いただきたいと思います。この点はよろしいですかね。——ありがとうございます。

また、事務局においても、これらの点について柔軟にご対応いただきたいと思いで、よろしくお願ひいたします。

÷÷÷

議題（１）令和３年度ミライカナエル活動サポート事業について

○事務局より、令和３年度ミライカナエル活動サポート事業について、説明が行われた。

（山岡委員長） それでは、今の事務局の説明について、確認しておきたいなどあればお願ひします。中身については前回の委員会でも議論しておりますので、このような形で進めるということです。何かありますでしょうか。

そんなに問題になるようなところは特にないかと思ひます。前回の議論を踏まえての修正になっております。特になければ、議題２のほうが重いので進めてよろしいですかね。——そうしましたら、以上で議題（１）「令和３年度ミライカナエル活動サポート事業について」を終了いたします。

÷÷÷

議題（２）令和３年度に向けた取り組みについて

○事務局より、令和３年度に向けた取り組みについて、説明が行われた。

（山岡委員長） それでは、今の事務局の説明についてご意見をお願ひします。きょう、あるいはその後も含めてですけれども、いただいた意見を踏まえて、またリバイスをしていくということです。取り組み結果は変わらないですけれども、計画の部分はまだいろいろ修正可能ということですので、ぜひご意見をお願ひいたします。

（細沼委員） 資料２－１の１－①、先ほど市民活動センターの方から説明があったんですけれども、取り組み結果については言わないということなんですか。

（山岡委員長） 言っただいていいですよ。結果は変わらないということだけなので。

（細沼委員） ありがとうございます。この部分で今回、「自治会活動などにも有用な情報を継続して」とあるんですけれども、どのような情報だったのかというのを知りたかったです。

あと、今たまたま私が自治会長をやっているんで、コロナ禍もあり、市民センターのほうも閉館になっていて情報がなかなか入りにくい。ウェブで見られる方は見られるんですが、やっぱり紙ベースじゃないと見られない方がセンターにも行けないということで、その辺、来年度もこのような状態が続くと、どのように情報発信されていくのか疑問に思ったので、来年度につなげて取り組みとして、もうちょっと詳しくやっていただ

けるのであればということなんですけれども。

(市民活動推進センター長) まず、有用な情報発信と記載した内容としては、当時、今も多分、市民自治さんのほうに掲載されていますが、臨時休館したときが年度のちょうど切りかわりだったものですから、書面表決等の情報が、まずうちのほうで一番最初に掲載した情報です。そこに関連する情報にも1個ずつリンクをつけてというのを、市のホームページの動きも見ながら発信していました。

あと、私どものほうで、今も休館中で印刷代行をしているんですけれども、そちらは通常、こちらの施設のうち、一部に関しては自治会さんにも使っていただいているので、印刷代行の話も掲載していたところですよ。継続してはいたんですけれども、市民活動の情報に比べれば、ボリュームとしてはそこまで多くはないです。

(細沼委員) 印刷に関しては、私も何度か印刷をしに行かせていただいたんですけれども、プラザさんとか湘南台の方は行きやすいのかなと思うんですが、プラザさんのほうには車がないと行けないという地区もあって、その辺が今年、とても苦労した点だったので、そのことだけちょっとお伝えしたいと思います。

(鎌倉委員) 最初のほうで言うべきことでもないし、また記録にとるようなものでもないんですけれども、1-②と特に最後の3-③に関連して、オリンピック・パラリンピックについて、今は微妙な状況で、なかなか計画は立てにくいと思うんです。準備室さんのほうで、ひそかにやっておかなければいけない、あるいはもうやられているかもしれないんですけれども、中止となった場合、あるいは不完全な形で行われた場合、つまり不完全燃焼だった場合に、藤沢でも特にボランティアのチームが一生懸命やっているものがあって、リソースがその時点ではたくさん蓄積されていると思うんです。

言葉はちょっと悪いんですけれども、ガス抜きというか、せつかくのものを発散させないともったいないし、また非常に鬱屈したものが残るのではないかということをおは何となく感じています。だから、ひそかにですけれども、その場合、市として、やってきたことを発散させる、十分生かすという施策を計画として考えておく必要があると思っています。ちょっと漠然とした言い方なんですけれども、これ全体を読んでそんなことを思いました。

(山岡委員長) オリパラのことはこのことだけではないと思うんですけれども、事務局のほうから、今の鎌倉委員のご意見について何かあればお願いします。

(事務局) オリパラ準備室でオリンピックボランティアさんも含めてやられているとい

うことで、実際行われるかどうかはまだ不透明なところではありますけれども、もし行われなかったとしても、チーム FUJISAWA に関する取り組みについては、その熱を地域活動につなげていきたいという部分では、そういった方向性でいきたいという話は伺っております。具体的にどう進められるかは、なかなかデリケートな情報なのですけれども、きょう、鎌倉委員からそういったご意見が出たというのは、オリパラの準備室に伝えてまいりたいと考えております。

(鎌倉委員) ありがとうございます。安心しました。

(阿部委員) ちょっと大きな話で申しわけないんですけども、この計画全体で大事なものは広報の話と、もう一つは人材育成の話だと思っています。広報については、もっともっと知らせなくちゃならないのに、その知らせ方が具体的にあまり書いていない。特に「volunteers」の本を見させていただきましたが、とてもいいと思うんですけども、これをもっと活用しようというところの力の入れ方が足りないんじゃないか。例えば、市の広報に「申し込み者には郵送しますよ」ぐらい、もっと「volunteers」という本を宣伝していくようなことを織り込むべきじゃないかというのが1つです。

第2点目の人材育成ですけども、人材育成とかコーディネーターとかファシリテーターとか難しい言葉が出てくるんですが、これが本当に市民に伝わっているかということです。どういう人材をどういう形で育成していかなくちゃならないのか。コーディネーターを育成しようとして、コーディネーターをこういうふうにして育成するんですよという話もなければ、活躍する舞台も設定されていない。団体として団体のリーダーをこれからつくっていくんだということに対して、そのリーダーをどうバックアップしていくのかというのがよく見えない。ファシリテーターの講座をやっていますよというのも、これが何人集めて、その程度のことをやるのか、その辺のところをもう少し詳しく説明いただきたいと思っております。

(山岡委員長) 広報の部分はもうちょっと活用してということですね。あと、人材育成のところは、もう少し具体的に教えてくださいということだと思います。

(市民活動推進センター長) 人材育成とファシリテーションの話ですね。人材育成に関しては、記載している内容で言うと、若者インターンシップというところなんですけれども、例年ですと、個々の団体さんに、応募してきた学生をインターンとして受け入れていただく。その団体に必ずコーディネーターを置いていただく意図としては、市民活動自体、その団体さんの持っている社会的価値等を、その進めていく中で理解して

もらうとともに、かなり具体的な事業についてその学生さんに担当してもらう。例えばサイトの構築とかですけれども、そういった中で興味を深めるというのと社会人教育を両立させたという形の仕組みで進んでいます。

今年度に関しては、団体さんに直接受け入れていただくというのが厳しい状況にありまして、活動団体数もかなり絞る形で、活動内容も考えてお手伝いしてもらったという形にどうしてもとどまっています。

ファシリテーション講座に関しては、いわゆる会議等の進め方、団体等は本当は技術としては限らないんですけれども、その集団の中の意見抽出、意見統一を円滑に行うための技術ですので、どちらかという団体運営に関する講座になります。おっしゃる内容で言うところの地域コーディネーター、地域ファシリテーターというイメージよりは、そういう方たちが持っているべきスキルということで私どものほうとしては講座を実施したということになります。

(阿部委員) 具体的に何人ぐらいおいでになって、どういう方をお入れになっているのか。

(市民活動推進センター長) 今回ご参加は 15 名です。団体をこれから立ち上げるという人もいらっしゃいますし、基本的には団体に所属しているかボランティアとして活動しているかというところで、今、講座の中でも個々にかかわり方が結構ずれているなというところは参加者のほうからもちよっと出ていますが、基本的には団体にかかわりのある人です。運営者の方が3分の1ぐらいで、あとは運営者以外の方なので、どちらかという運営者の方に響くかというところですが、技術として持っていて、もともとボランティアとしてだけかかわっているような人にもある程度、団体で存在感を出してもらえるような内容にはしております。

(阿部委員) 15 名では少ないので、もっとそれをふやしていこうとか、その人たちが講座を受けてから活躍できる場所があるのかとか、その辺はいかがですか。

(市民活動推進センター長) まず 15 名なんですけれども、今オンラインでやっていますが、前回、直接でやったときよりは正直言ってふえております。ただ、ファシリテーションという言葉でぴんとくる人は、比率としてはそんなに多くなくて、今までで言えば、団体運営を担っている人に刺さってきたんですけれども、それが今回、どちらかという興味があるだけという形で来る人がふえたというイメージです。

実際、使うという場面で、私どもの枠組みとしては団体のNPOマネジメント講座で

すので、基本的には団体をお持ちの方がその団体の中で会議等を価値あるものにするという中で使っていただくというのが第一義とは考えています。その意味で言うと、先ほどの中心となっている方とか、そこの周りの方々がこれを覚えていくことというのは、どちらかというとい会議の活性化をするとともに、団体のメンバーの中からの意見をきちんととって団体自体を活性化していくということが目的になりますので、受けた団体さんで生かしていただければ、私どもでも有効になるとは考えています。

ただ、もともと中心の方が音頭を取ってそういうことをできるという場合と、ボランティアの方がそこを変えていけるかというのは多少差が出るかと思いますが、基本的にはそういった形で団体運営のほうには効果があると考えて実施しているものであります。(阿部委員) これからボランティアを始めようという人を、もっともっとそういうところに巻き込んでいくという仕掛けが必要なんじゃないかと思うんですけども。

(市民活動推進センター長) どちらかというといファシリテーション講座そのものというより、表でいくと1-②の②になってくるかと思いますが。「volunteers」等を今発行していますけれども、今の冊子も通常のものより、いろいろ配慮というか、できない部分が多いです。

3-③は、先ほど鎌倉委員もおっしゃったように、オリンピック・パラリンピックのところでも実は「volunteers」の記載はしているんですが、基本的にはこころの発行物というのは、まず今までどおりやっているんですけども、ご指摘があったような広報に出すということは、今のところ、公共施設、セブン-イレブンと協力店舗というところが主な配布先になっています。配布先に関しては、次回、特別号になりますので、まず配布先の拡大をします。協力店舗をふやすという形ですと、そんなに目につかないんですけども、広報のほうは、先ほど市民自治さんのほうでおっしゃってくれたところで、私どもがやることとしては、直接手にとれる場をふやしていくというところに関しては進めていくつもりでいます。

(阿部委員) 私たちが「volunteers」の雑誌を配るのに手伝うようなことがありますか。

(市民活動推進センター長) 置いてくれそうな店舗の情報等があれば、ご連絡いただければ、私どものほうでそちらにお願いに行くことはできます。なので、もしそういった情報をいただければと思います。

(阿部委員) わかりました。ありがとうございました。

(山岡委員長) 関連してなんですけれども、「volunteers」は学校には送っているんで

すよね。高校とか大学とか。

(市民活動推進センター長) 学校に送っています。ただ、こちらでファクスを送って、「必要数は幾つですか」という形なので、その受け入れ数に関しては各高校とか中学ごとにまちまちになります。

(山岡委員長) 大学にもいただいています。私はいつも研究室のドアとかに置いておくのですが結構なくなります。だから、意外と学校はいいということと、あとは「volunteers」のウェブ版がありますよね。それは今このコロナの中でうまく活用できるんじゃないかなと思います。

先ほど、高校に言っても外部の人が入れなくて、なかなか連携の事業ができないという報告が1-②のところでありました。「volunteers」の話と関連するからちょっと言わせていただくんですけれども、学校側の事情はそれでしょうがないと思うんですが、高校生の立場に立つと、16歳から18歳の彼らが外部とつながる機会が少なくなっているんで、オンラインでも何でも、何かをすることを探っていただきたいんです。高校側の事情だけでなく、高校生とか大学生のことを考えて何とかしていただきたいということです。

その際に「volunteers」はすごく有効で、授業の教材として使うこともできます。あれを見て、「行ってみたいボランティアある?」「どれかひとつ選んでみて」「何でそこに行きたいの?」とか、それだけでも地域との関わりを考える機会になるので、うまく活用して、そのところは高校にもアプローチしていただきたいと思います。

(阿部委員) ちょっと個別の話なんですけれども、翔陵高校とかでそういう授業もやっていますし、それから聖園女学院で今度は、みその森を見ましようみたいな、市民活動に近いようなことをやっているわけなので、そういうところの情報をもっと入れて、そういう集会を参観してみるとか、ちょっと具体的に動いていただければいいかなと思います。また個別にお知らせします。

(原田委員) 3点ほど申し上げたいんです。

まず資料2-1の裏面で「ミドルエイジ(40~50代)にスポットを当て」というところなんですけど、コロナ以降、リモートで仕事されている方もふえてきて、実際うちの自治会なんかでも、「リモートになったから会長できます」という方も出てきたりしているんです。あと、コワーキングスペース化も進めて、あいているアパートでコワーキングスペースにしようという動きなんかも出てきているんです。地域や市内に、例えば

映像とか情報発信とかにすぐれた若い方々が存在しているようになってきているかなという気がするので、そういう方々に対してどうやってアクセスして市民活動に加わっていただくのかという観点も、この計画の中でも持っていたきたいというところがまず1点です。

続いて、2点目が資料2-2の地域包括ケアシステム推進室が実施した戸別訪問について、計画のほうに入れていただいてありがとうございました。今後の連携について意見交換を行ったということなんですけれども、ここについて言うと、福祉的な課題に特化する部分はあるかと思いますが、コロナで活動がとまったことによって、特に高齢者のQOLが下がったかどうか。

下がっていると思うんですが、市役所とか市民センターがとまった状況の中でも、民間NPOや、先ほど細沼さんから話もありましたけれども、自治会とかがどういふことを高齢者にすることができればQOLを下げないでいられるか、そういう活動を少し研究していただいて、実践に結びつけていただけたらいいんじゃないかと思いますので、その点についても考慮していただければと思います。

それと、2-2の裏面ですけれども、先ほどご報告ありましたけれども、市民活動推進センターがアンケート調査を行っていて、それについても、この中で反映していくという話がありました。アンケートのほうも拝見させていただいたんですけれども、このアンケートはまだ途中ということだったんですが、今後このアンケートの結果をどういふふうに捉えて、何に使おうとされているのか、そのあたりを推進センターのほうにお伺いしたい。

(山岡委員長) 質問の部分はセンターのほうですので、アンケートのところをお願いします。

(市民活動推進センター長) まずセンターの事業として、もともと前提としてできる事業というので対応できるのが、先ほどのご報告でも申し上げましたけれども、個別にご相談いただくか、いわゆる企画事業の場合ですと、講座の提供と交流事業の提供というところになります。センター単独でやることとなったときには、先ほど申し上げた講座に反映するということにとどまらざるを得ません。

昨年度の場合ですと、私どもで3~4月に行った緊急調査の結果については、指定管理団体のほうで助成金を独自にやったりしています。結果に応じて、センターでやれることはセンターでやりますし、もしセンターの枠組みの中でできないことで、私どもの

指定管理団体のほうが手が届くことでしたら、そちらでやるということもあり得ます。それ以外ですと、基本的には結果を担当課と共有しますので、その担当課とのやりとりの中でできることを探っていくという形にどうしてもなってきます。

(原田委員) 意見というかアイデアを幾つか申し上げたいのですが、まずアンケート調査だけだと、アンケートに答えている団体もしくはアンケートを送ってきた団体の状況しかわからないので、例えばコロナ禍のところで活動していた実績みたいなものをタウンニュースとか新聞でいろいろ出ていると思うんですけども、活動できた団体の内容を、アンケート以外にも聞き取り調査も含めて、推進センターさんで実態調査みたいな形でまとめていただければいいなというのがまず第1点です。

あと、このアンケート中を拝見していても、先ほど推進センターさんからお話がありましたけれども、例えばIT化なんかも個別ケアが必要だとおっしゃっていましたが、年齢によって、やっぱり年代が上がっていく団体に関してはIT化が非常に難しい。個別で相談いただければというところは確かにあると思うんですけども、Zoomで相談という以前の話で、Zoomもできない団体に対しては、コロナでいろんな自粛の中で、今後そういうことがあるかどうかわかりませんが、どうやってそういうところにITについて相談に乗っていくのかというところがあると思うんです。

講座も、いわゆるチラシをまいたり、ネットで宣伝したりして「こういうのがありますよ」と言っても、その情報に行き着かない団体に関してどういうふうに情報発信をしていくのかなど、そのあたりも今後について必要なことだと思うんです。

そこでアイデアを申し上げたいのは、今回のアンケート結果と実態調査の結果をぜひ推進センターさんの中でカテゴリーで分けていただく。例えばどんな状況下でもやらざるを得ない団体、いわゆる福祉的なところ、次に、どんな状況下でもやろうとする団体、あとは、やらなくても済んだところ。重要なのはここなんですけれども、やりたいけど場所がない、お金がない、人がない、手法がわからなくてできなかった。こうやって分けたときに、最後に言った団体に対して、どういうふうに推進センターさんや市がアクセスしてバージョンアップしていくかによって、どんな状況でもやろうとする団体になれるんじゃないかなと思うので、アンケート結果からそういう目的を持って導き出していただけるといいかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

(市民活動推進センター長) まず最初のところでおっしゃった、コロナ禍で頑張っている団体は、調査みたいな形にはしていないんですけども、今までは行政情報とかそう

いったところが1面になることが多かったんですが、6月から情報誌をリニューアルした後ですと、コロナの影響が何がしかある時期の発行なんですけれども、基本的にはその中で頑張っている個々の団体にスポットを当てていくという形の誌面に変えています。蓄積はしているんですけれども、おっしゃるとおり、整理されていないのですが、そういう形で紹介できたらというふうに考えてリニューアルしたところが、ちょうど今年度に関しては今おっしゃったような団体さんをご紹介することができたというところです。

個別のITのケアに関しては、うちの推進センターですとサポートクラブがあるんですが、そこで今一番頑張っていると言っても過言ではないのがITサポートです。結構人数もいるんですけれども、おととしぐらいから、そのサポーターさんが、回によって人数はまちまちなんですが、1対1で特定の時間、この時間だったら何でも受け付けますという直接のご相談を継続してやっていました。

今は休館時期でできないので、「Zoomで来てください」にどうしてもならざるを得ないんですけれども、休館明けのときも、透明なパーテーションみたいなものを使って、個別は割とすぐに再開させていただいて、操作はどうするかというのを見ながら教えるというのはかなり急務だと思ったので、そこはずっと続けています。

すみません、3点目をもう一度簡単によろしいですか。

(原田委員) アンケート結果から、団体をカテゴリー分けして、やりたいけどできなかったという団体に関して、何がネックになっているかというのを聞き取り調査したり、アイデアを提案していただけたらいいかなと思うんですけれども。

(市民活動推進センター長) 今のところ、こちらの調査ですと、いわゆる一般論みたいな部分があればいいんですが、当てはまらなければ書いていただくというところはどうしてもなってきます。現状でこれができるというのをぱっと思いつかないので、そこは恐縮なんですけれども、先ほど申し上げた指定管理のほうで募集した助成金に関しては、要は困っている団体さんが申請してくるような類の設計にしていますので、その後の追いの聞き取りはする予定です。

(原田委員) やりたいけどできなかったというところに関して、例えば場所の問題とか助成金の問題とか、相談してくる団体はいいと思うんですけれども、相談もせず諦めちゃっているというの、このアンケート結果から見えてくるところがあるので。

アンケートは記名なんですかね。

(市民活動推進センター長) 一応記名です。

(原田委員) 推進センターさんがその部分だけを拾って電話をかけるなり、相談をこちらから持ちかけて「何かできることがあれば」とやっていただくのも1つの手かなと思っただけです。コロナをきっかけにZoomが始まって、それはいい部分でもあると思うので、コロナがおさまったとしてもそういうところを広げていくとか、コロナ禍でも活動できるような後押しを推進センターさんも市もしてほしい、そのあたりをアンケート結果と結びつけていただけるといいなと思いました。

(事務局) 一番最初の中核エイジに関連するところで、実際テレワークが浸透しはじめておりますが、一方最近テレワーク率が下がってきているという情報も、内閣府の全国調査とかでも明らかになってきておりますので、事務局としてはそういった部分の観点は一応承知しているところです。

生涯学習総務課のほうでは、ライフスタイル講座というもので、コロナの影響で、参加者の方々がいろいろなライフスタイルの変化に伴って自分の時間をどう使っていくかという講座みたいなものも打たれていると承知しています。今年度も実は連携の可能性をいろいろ探りながら調整を進めているところではあるんですけども、次年度以降、そういったところの機会をしっかり捉えてまいりたいと考えております。

あと、2点目のご意見でいただきました、包括ケア推進室が行った部分ですね。戸別訪問の結果から、具体的には福祉的な側面の課題が相当多いというのは、いろいろと伺う中で印象として持ちました。その中で実際、福祉健康部で、例えば介護予防事業でサポートできる場所はそちらの事業でサポートするというのもあると思います。ただ、そこではなかなかカバーできないようなところ、例えば市民活動を1つの選択肢として考えていただくという部分では可能性はあるのかなと思っております。話を伺っている限りでは、13地区ごとに課題はさまざまというふうに承知しておりますので、マッチングできる部分は積極的に連携しながら働きかけを行ってまいりたいと考えています。

以上でございます。

(原田委員) そのところなんですけれども、例えば市民センターを閉じるとか公共施設を閉鎖してしまう。現状もそうなんですけど、そういうときに活動できない団体はかなり多く出ているわけです。そこに対して、市というか市民自治としてどういうふうに支援していくのかということも大きな課題だと思っておりますが、そのあたりは事務局に聞くことになってしまいますが、どういうふうにお考えでしょうか。

(事務局) この感染症予防上の緊急事態宣言というのは、基本的に人との接触をいかに

減らしていくかというのが肝だと考えています。これは政府の見解でも明らかにされているところですが、もちろん市民活動団体の方々に活動していただくというのは、こちらとしては大変応援したい立場でございますけれども、感染が拡大する中においては、できる限り人との接触を減らしていかなければいけない状況があります。

緊急事態宣言が出されている中において市民活動を行っていただくのも、やはり施設を閉じざるを得ない状況の中では、もうしばらく我慢をしていただきたいという部分で、なかなか難しいところではないかと考えています。

(原田委員) 例え距離をとるとか、感染症の対策ガイドラインみたいなものがありますね。市民活動を継続していくために、市としてこういうガイドラインを守っていただいて、市民活動を積極的に動かすような後押しをしていくというところがあってもいいんじゃないかなと思うんですけども、そこは今年度は見えてこなかったのが、来年度に関しては、例えば施設を閉じざるを得ない状況だとしても、年間の中で自治会やNPOが活動していくためのガイドラインであったりとか、こういうお金の取り方がありますよとか、そのあたりを積極的に市が押しているんだというところをもうちょっと見せていただけるといいかなと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

(事務局) どの施設をどこまで閉じるというのは、市のコロナ対策の本部会議の中で決定された事項というところもあって、この場でこういった方向性でいきますというのはなかなかお答えしづらいんですけども、市民活動を応援する立場である市民自治でございますので、今後こういった形でコロナが推移していくというのは、全国的にもまだ見通しが立っていない状況ですが、いただいたご意見を踏まえて対応してまいりたいと考えております。

(山岡委員長) 今の原田委員からのご提案は、市としてそれをやると、市のお墨つきみたいになっちゃって、なかなかやりにくいところがあると思うんです。私が思うのは、具体的にやっている団体をショーケース的に紹介するというんですかね、「うちの団体ではこういうガイドラインをつくってやっていますよ」とか、そういうのを表にもっと出していくというか、シェアしていくという形で、セミナーとか講座とかニュースレターなのかいろいろなやり方がありますが、そういうことをしていけば、そういうやり方もあるのかなというふうになるのではないかと思います。それを市が「このガイドラインです」とバンと出すのは、市民活動もいろいろ状況が違うので難しいかなという気がしますね。そういうノウハウの共有みたいなことは、ぜひどこかに入れていただきたい

と思います。

(林委員) 委員というよりは、市民活動プラザむつあいの人間として答えさせていただければと思います。

先ほど関野センター長が申しましたように、今、情報誌を使ってコロナ禍で活動できている団体を少しずつ紹介しているんですけども、やはり情報誌を見てくださいる方というのは限られているのが現状でして、これは遅くなったなと思っているんですが、ウェブにどんどんそういう活動を上げていきたいと思っています。

ちょっと余談になってしまうんですけども、現在、推進センターとプラザは別々のホームページなんです。これは、一番最初に分館ができたときに、契約が推進センターと一緒にじゃなかったんで別々にできたという過程があるんですけども、今は本館と分館という位置づけで、利用者さんにとっては分かれている意味がないので、今、一緒にして新しいのをつくらうとしているんです。新しいものをつくる中で、推進センターにさまざまな情報が入っていますので、それを完全につくり直すのは結構大きい作業だなと思っていたんですけども、まず情報誌に載せているようなものをブログ形式ぐらいのレベルでもいいのかなと思うので、ちょっと先にそれをつくって早めにリリースしたいと思っています。

それから、Zoom とか使えない方はどうするんだという話は本当におっしゃるとおりで、「今後 Zoom を使っていきます。だからまず Zoom の使い方を習わないとね」と言って、実際に皆さんでプラザに習いに来るという予定があったんですけども、それが直前に緊急事態宣言でなくなってしまったという事例もありました。

この段階ですので、今はこの緊急事態宣言が明けるのを待ったほうが早いかなという思いもあるんですけども、こういう事態がもう一回ないとも限りませんので、そういうときに目がけて、ある程度動画をつくったほうがいいのかなどはちらっと思っています。もちろんパソコンによって結構違うので、どこまで皆さんがわかる動画にできるかというのは別の話なんですけれども、「Zoom はこうやってインストールするんですよ」というのを動画として送ることができたら、少なくとも「ここが違った」みたいな相談を電話でも何でもできるようになるのかなと思っています。そういう動画マニュアルみたいなのは整備する必要があるかなと思っています。

それから、先ほどの阿部委員の話ともつながってくるんですけども、広報の話ということで、何でも相談いただけるんですけども、実際に相談に来ていないということ

に対しては、今まで情報誌をやったり、「volunteers」を配ったりとか、いろいろやってきた中で、今、同じやり方では広がらないのかなとは確かに思っておりまして、新しいチャンネルをつくりたいなと思っています。

その1つの方法としては、私たちの活動は団体さんを支援することですので、その団体さんにもっと目立っていただくというのがあるかなと思っています。もちろん情報誌で紹介するというのもそうなんですけれども、あしたから湘南台の駅地下でパネル展みたいなものを行います。今回そこまで団体数が多いわけではないんですけれども、団体の紹介の場を私たちがつくっていくというようなやり方をすれば、団体が目立つ。何で目立つかという、こういう支援施設があるからだというふうな話で、もう少し相談等に来てもらえるかなと思っています。今回はそういうパネル、ポスターみたいなものをつくるという話なんですけれども、来年度はそれこそ動画とかの作り方をお話して、団体さんの動画をどこかで一遍に流すということもできないかなというふうにして、広報に力を入れていきたいと思っています。

(阿部委員) センターさんでということは、プラザさんでチャンネル登録をされて、そのチャンネル登録をすれば、いろんな団体の画像が見えるような、そういうのを発信していく。要は You Tube のチャンネル登録をすれば、いろんな団体の活動がそこに入っていると。例えば、私は講座を持っていて、今コロナ禍で対面ではできない状況なんですけど、それをライブ配信とまではいかないんですけれども、動画でそれを載せておくと、チャンネル登録した人がクリックすれば、私の講座の動画が見られるというようなことを考えており、そのようなベースをプラザがつくって下さるといえるのはいかがでしょうか。

(林委員) インターネットで載せておくこと自体は、比較的受け身なメディアになってしまうかなと思うんですけれども、そうやってご活用いただけることでどんどん見られる可能性、機会もふえていくと思いますので、そういう協力をいただけるならどんどんつくっていきたくと思います。

今年度も市役所でパネル展示をやっていましたけれども、そういうのが動画になったらいいなと思っていますし、通りがけに見られる機会をどんどんつくって、それがもともと You Tube に載っていれば、見に来てくださった方にも、いろいろなものが並んでいるサイトにもなります。いずれにしても、そういうのはコンテンツありきだと思います。なので、動画は結構つくるのが難しいところもありますけれども、丁寧な講座をや

っていきたいと思っています。

(阿部委員) よろしくお願いいたします。

(山岡委員長) それでは大体時間になりましたので、この意見交換は一旦ここで終わりにしてよろしいですかね。

今は議論の途中ということでもないんですけれども、先ほど事務局からお話があったように、メール等でもご意見を受け付けますということですので、後で読んでまた何か気がついたことがあったりすれば、ぜひ遠慮なく事務局のほうにご連絡いただければと思います。

それでは、以上で議題（２）「令和３年度に向けた取り組みについて」を終了します。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

(3) その他

(山岡委員長) 最後に、議題（３）「その他」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) それでは、事務局より２点ご案内がございます。

まず１点目は、次回、第７回の開催予定についてでございます。次回は３月 25 日、木曜日の午後 6 時からとなります。場所は、市役所本庁舎 5 階の 5-1 会議室を予定しておりますが、本日と同様に Zoom での開催も想定しております。詳細につきましては、後日、メールでご案内させていただきますので、ご確認くださいませようお願いいたします。

続いて２点目は、来年度の委員が変更になる場合のお願いでございます。委員の皆様におかれましては、第 10 期ということで、今年度から 2 年間の任期でございますので、来年度も引き続きご参画いただく予定でございますけれども、これから先、3 月に入るとまいりますと、転勤とか役職の変更等、いろいろ人の流れがあると思います。もしも委員の変更が生じる場合がありましたら、新しい委員の方へのバトンタッチの手続の関係もでございますので、なるべくお早めに事務局のほうにご連絡いただければ幸いです。

事務局からは以上 2 点でございます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

閉 会

(山岡委員長) それでは、本日の日程はこれで全て終了しました。皆様、議事運営にご

協力いただきまして本当にありがとうございます。

以上をもちまして第6回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は大変お疲れさまでした。

午後7時26分 閉会